

佐倉市立佐倉南図書館所蔵

シニア向け 紙芝居ガイド



佐倉市立佐倉南図書館

2020年6月 6訂版発行

<シニア向け紙芝居のご利用について>

- 紙芝居は、大人がみても楽しいものです。佐倉南図書館で所蔵している、シニア向けの紙芝居をご紹介します。集まりでのレクリエーションや、ケアの現場などでご活用ください。

目次・・ 1

*題名の前に★印がついているものは、新着紙芝居です。

【思い出すあの頃・・・・・・・・】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

愛染かつら

黄金バット<ナゾー編>

キンちゃんコロちゃん<第473巻>

金色夜叉

金色夜叉 続

ジャングルボーイ<第24巻>

丹下左膳<宝壺の巻・第5巻>

★駐在さん

なまたまご

花嫁さん [日本の習わし]

平和への祈り<第2巻>

瞼の母

【昔話を楽しみましょう】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

あかんぼばあさん

いたずらぎつね

いっすんぼうし

いもころがし

うばすて山

うまいものやま

うらしまたろう

おににさらわれたあねこ

おぶさりてい

かぐやひめ

かさじぞう

かちかちやま
くわす女房
こぶとりじいさん
さるかにがっせん
じいさまときつね
したきりすすめ
たのきゅう
つるのおんがえし
ねすみちょうじゃ
のっぺらぼう
ばけものでら
はなさかじい
ふるやのもり
ももたろう
ゆきおんな

【落語でゆかいに】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

さぎとり
さらやしきのおきく
七どぎつね
善光寺お血脈のご印
そろそろ
とまがしま
めがねやとどろぼう

【日本の古典と名作】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

安珍清姫物語
風の又三郎
くもの糸
ごんぎつね
曾根崎心中
泣いた赤おに
花の木村と盗人たち

【寂聴おはなし紙芝居】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

おばあさんの馬
幸せさがし
月のうさぎ
針つくりの花むこさん

【他にもいろいろー高齢者向け紙芝居】・・・・・・・・・・ 12

うなぎにきいて[おはなし]
お茶にしましょ [ことば遊び]
おっばい山 [ユーモア&色気]
おどりはダンスホール [趣味・生きがい]
かわださん [つみあげ話]
きつねの盆おどり
しょいくらべ [夫婦愛]
昭和の窓 [回想]
父のかお母のかお [戦争の時代]
峠の老い桜 [戦争の時代]
どっか〜ん [花火]
とばしっこ [ナンセンス]
★どんと来い！三途の川 [ユーモア]
夏のおもてなし [夏の食事]
待ちぼうけ [歌遊び]
みいちゃんのかぞうえたあそびうた [遊び歌]
みいちゃんの春 [童謡]
みいちゃんの夏 [童謡]
みいちゃんの秋 [童謡]
みいちゃんの冬 [童謡]
みんなでおめでとう [音遊び]
もも子さんとオレオレ詐欺 [高齢者サポート]

【ご参考までに】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

◆思い出すあの頃・・・◆

「愛染かつら」 川口松太郎／原作 サワジロウ／脚本・絵 梅田佳声／監修 雲母書房
(高齢者向け紙芝居)

昭和初期に大ヒットした『愛染かつら』が、紙芝居になりました。津村病院の御曹司津村浩三と、看護婦高石かつ枝の恋路の行方は・・・。「花も嵐も踏み越えて♪」の流行歌『旅の夜風』も、懐かしく思い出されます。

「黄金バット<ナゾー編>」 加太こうじ／作・画 大空社(懐かしの紙芝居)

悪の科学者ナゾーにさらわれた篠原博士の娘マサエは、博士の持つ破壊光線のありかを言うよう脅されます。助けにやってきた黄金バットは、ナゾーの手先を木っ端微塵にして立ち向かいます。ナゾーと黄金バットの対決やいかに。*<ナゾー編>のみ復刻のため、続編はありません。

「キンちゃんコロちゃん<第473巻>」 大空社(懐かしの紙芝居)

キンちゃんとコロちゃんは、フラフープで遊びます。どっちがうまく回せるかな。競って回しているうちに、あらら、困ったことになりました。

「金色夜叉」 尾崎紅葉／原作 サワジロウ／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房
(はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

時は明治、寛一の許婚であるお宮は、資産家の御曹司になびいてしまう。熱海でお宮と御曹司の逢瀬を目の当たりにした寛一は、お宮を蹴り飛ばして絶縁する。名場面、名せりふで名高い恋物語。

「金色夜叉 続」 尾崎紅葉／原作 サワジロウ／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房
(はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

熱海の別れから5年、裕福な銀行家の妻となったお宮は、ぜいたくな暮らしに飽き飽きしていた。一方、あこぎな高利貸しに身を落とした寛一は、襲われて大けがを負ってしまふ。ようやく退院した寛一のもとを訪ねたお宮は・・・。愛と金に翻弄される男女を描いた名作。

「ジャングルボーイ<第24巻>」 東健児／作 野田新太郎／画 大空社(懐かしの紙芝居)

おもちゃで遊ぶのにあきた爆弾坊やと小猿のポコちゃんは、外に出て冒険ごっこをすることにしました。向こうからやってきたのは、外国人の子どもたち。ポコちゃんをからかってきました。怒ったポコちゃんは・・・。*<第24巻>のみ復刻のため、前後の作品はありません。

「丹下左膳<宝壺の巻・第5巻>」 桃井寅吉／作 常盤富士／線画 大空社（懐かしの紙芝居）

日光東照宮の改修工事を割り当てられた柳生対馬守は、江戸屋敷に百万両入ったこけ猿の壺があると聞き、弟の源三郎に取りに向かわせる。その話を盗み聞きした丹下左膳は、先回りして壺を得ようとするが……。*＜第5巻＞のみ復刻のため、前後の作品はありません。

★ **「駐在さん」** 本多ちかこ／脚本・絵 ときわひろみ／監修 雲母書房（高齢者向け紙芝居）

食糧不足が続いた、昭和23年のある日のことです。新米の駐在さんは、子どもの何気ない会話から、ヤミ屋がくることを察知しました。本来は、取り締まらなければならない駐在さんですが、子どもの笑顔がよぎりました。

「なまたまご」 おかのけいこ／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房（高齢者向け紙芝居）

昭和22年、もののない時代のことです。さんちゃんは、身体の弱い赤ちゃんでした。お母さんは工面を重ねて、毎朝さんちゃんに生卵を飲ませます。好きではない生卵をがんばって飲んださんちゃんは、無事に大人になりました。母の愛が伝わってくるお話です。

「花嫁さん【日本の習わし】」 サワジロウ／脚本・絵 雲母書房（高齢者向け紙芝居）

婚礼の日、髪結さんは花嫁さんの髪をめでたい高島田に結び上げます。美しく化粧をほどこし、引き振袖に角隠して花嫁さんの出来上がり。両親に別れの挨拶をして、花嫁行列が出発しました。嫁ぎ先の敷居をまたげば、もうこの家の人です。三々九度が交わされ、祝宴が始まりました。花婿の優しいねぎらいの言葉に、花嫁さんは張りつめていた心が解けていくのでした。

「平和への祈り<第2巻>」 町屋住男／作 Nきいち／線 大空社（懐かしの紙芝居）

原爆投下直後の広島。光子はその場に立ちすくんでいた。助けを呼ぶ声に振り返ると、担任の先生が家の下敷きになっている。なんとか助け出すが、先生のお母さんはすでに……。*＜第2巻＞のみ復刻のため、前後の作品はありません。

「嘘の母」 長谷川伸／原作 サワジロウ／脚本・絵 雲母書房（高齢者向け紙芝居）

5歳の時に母と生き別れ、12の年に父を亡くした忠太郎。母のおはまは、料理茶屋のおかみになっていた。30を過ぎてようやく母を探しあてた忠太郎を、おはまは自分の子ではないと追い払ってしまう。股旅物の名作。

◆昔話を楽しみましょう◆

「あかんぼぼあさん」 川崎大治／脚本 金沢佑光／画 童心社（ゆかいな民話選）

山の奥で見つけたふしぎなわき水を飲んで、じいさまはすっかり若返りました。ばあさままでかけていきますが、いつまでたっても戻りません。じいさまが見に行くと・・・。

「いたずらぎつね」 桜井信夫／脚本 藤本四郎／画 童心社（日本民話かみしばい選）

山寺の和尚さんは、村へお経をあげにいった帰り道、おみやげのごちそうをきつねにとられてしまいました。怒った小僧さんは、きつねを捕まえてこらしめようとはしますが・・・。きつねと小僧さんの知恵比べが楽しいお話です。

「いっすんぼうし」 浜田留美／文 池田仙三郎／画 教育画劇（紙芝居むかしばなし 第2集）

こどもを欲しがったおじいさんとおばあさんのところに、小さな小さなこどもが生まれました。一寸法師と名付けられたこどもは、やがて都へ上ることに。針のかたなにお椀の舟、お箸の櫂で川を漕いでいきます。都では、大臣の屋敷で働くこととなりますが・・・。

「いもころかし」 川崎大治／作 前川かずお／絵 童心社（かみしばい日本むかしむかし）

鼻が悪くてことばのはっきりしない和尚さんが、小僧たちをつれてえらい坊さん方の集まりに出かけていった。和尚さんが、粗相のないよう自分の真似をするよう小僧たちにいきかせたところ、失敗まで真似されてしまい・・・。ゆかいなわらい話。

「うばすて山」 岩崎京子／脚本 長野ヒデ子／絵 童心社

（かみしばいぐんぐんのびのびいきるちから）

「年寄りを山に捨てるように」殿様のお触れに従うことができず、若者は床下に母親をかまいます。さて、隣の国が無理難題を言ってきました。答えられなければ、攻め込んでくるというのです。伝え聞いた若者が、母親に聞いてみると・・・。

「うまいものやま」 佐々木悦／脚本 箕田源二郎／画 童心社（童心社のベスト紙芝居）

ぐうたら息子のもさくは、うまいものばかり欲しがり、親を困らせていました。そこで、おやじどのは一計を案じ、うまいものやまへ行こうともさくを連れ出します。

「うらしまたろう」 奈街三郎／文 工藤市郎／画 教育画劇（紙芝居むかしばなし 第1集）

村の子どもたちから亀の子を助けた浦島太郎は、お礼に竜宮城へ招かれました。楽しく過ごしますが、うちが恋しくなった太郎に、乙姫は玉手箱を持たせます。うちに戻ってみると・・・。

「おににさらわれたあねこ」 水谷章三／脚本 須々木博／画 童心社

(日本民話かみしばい選)

みなしごの姉と弟が山で栗をひろっていると、姉が鬼にさらわれてしまった。弟は鬼の屋敷までたどりつくが、見つかって鬼と勝負することになってしまう。最初の勝負は姉の知恵で切り抜けるが、次はどうにもならない。さあ、どうする。

「おぶさりてい」 市川京子／文 夏目尚吾／画 教育画劇 (日本民話かみしばい選)

おかみさんの知恵で臆病が治った亭主は、すっかり自信をつけ、化け物が出るという村はずれに出かけていきます。そこで出会った化け物をおんぶして帰った亭主に、おかみさんはびっくりぎょうてん。朝になると、化け物はあるものに変わり、めでたしめでたし。

「かぐやひめ」 福島のリ子／文 岩本圭永子／画 教育画劇 (紙芝居むかしばなし 第2集)

竹取のおじいさんが光る竹を切ってみると、中には小さな可愛らしい女の子が。連れて帰って育てると、美しく成長し「かぐやひめ」と呼ばれるようになりました。5人の求婚者に、かぐやひめが求めたものは。

「かさじぞう」 長崎源之助／文 箕田源二郎／画 教育画劇 (紙芝居むかしばなし 第2集)

年の暮れ、貧乏なじいさまは町へたきぎを売りに行きますが、一つも売れません。行き会った笠売りと品物を交換して戻る途中、雪をかぶった六地藏を見かけ笠と自分の手ぬぐいをかぶせていきます。その夜更け、じいさまの家にやってきたのは。

「かちかちやま」 西本鶏介／文 遠竹弘幸／画 教育画劇 (紙芝居むかしばなし 第2集)

じいさまが畑仕事をしていると、たぬきがやってきてからかいました。腹をたてたじいさまはたぬきを生け捕りにし、たぬき汁にしようとして家に運びます。ところが、ばあさまがたぬきに打ち殺されてしまいました。気の毒に思ったうさぎが、一計を案じて……。

「くわす女房」 松谷みよ子／脚本 長野ヒデ子／画 童心社 (民話かみしばい傑作選)

飯を食わない嫁がほしいと願った男のもとに、願いどおりの女がやってきた。飯を食わずよく働く女を不思議に思った男は、出かけるふりをして天井裏に隠れ、様子を見ることにした。さて、嫁の正体は？

「こぶとりじいさん」 鶴見正夫／文 西原ひろし／画 教育画劇

(紙芝居むかしばなし 第2集)

働き者のおじいさんは、雨宿りに入ったお堂で寝入ってしまいました。目覚めると、外で鬼たちが楽しそうに踊っています。おじいさんが見事に踊ってみせると、鬼たちは大喜び。明日も来るよう、おじいさんの頬のこぶを奪いとりました。いじわるなおじいさんも、頬のこぶを取ってもらおうと出かけていきますが……。

「さるかにがっせん」 長崎源之助／文 若菜珪／画 教育画劇

(紙芝居むかしばなし 第1集)

にぎりめしのかわりに、猿から柿の種をもらったかには、種を蒔いてせっせと育てます。大きな木となり、たくさん実がつけました。やってきた猿は、木にのぼって柿を食べ、青い実をかんに投げつけ殺してしまいます。かんにから生まれた子がにたちが、敵討ちに出ると・・・。

「じいさまときつね」 増田尚子／脚本 二俣英五郎／画 童心社 (日本民話かみしばい選)

いたずら好きのじいさまは、峠で狐を驚かしている気分です。用事をすませて峠に戻ってくると、あたりはだんだん暗くなり、向こうから不思議な音と光が近づいてきました。あれは一体？

「したきりすずめ」 安田浩／文 輪島みなみ／画 教育画劇 (紙芝居むかしばなし 第1集)

ばあさまは煮ておいたのりをなめてしまったと、じいさまのかわいがっている雀の舌を切ってしまいました。じいさまが雀のお宿にあやまりにいくと、雀たちは喜んでもてなし、みやげに宝物の入ったつづらを持たせました。うらやましくなったばあさまも出かけていきますが・・・。

「たのきゅう」 渋谷勲／脚本 藤田勝治／画 童心社 (日本民話かみしばい選)

母の病の知らせを聞いて、旅役者のたのきゅうは化け物が出る峠を越えようとします。うわばみの化け物と出会ったたのきゅうは、かつらや衣装で化け物を欺き、弱みを聞き出しました。母の病の原因が、化け物だと知ったたのきゅうは・・・。

「つるのおんがえし」 岡上鈴江／文 輪島みなみ／画 教育画劇

(紙芝居むかしばなし 第2集)

罨にかかっていたつるを助けてやったおじいさんの家に、色の白い美しい娘がやってきました。娘の織った織物は、たいそうな値で売れていきます。見てはいけないと言われていた娘の機織りのようすを、おばあさんは覗いてしまいました。

「ねずみちょうじゃ」 川崎大治／脚本 久保雅勇／画 童心社 (ゆかいな民話選)

やさしいおじいさんが、ねずみの子どもたちにおにぎりを分けてやると、お礼にねずみの御殿へ招かれました。お土産は、宝が出るうちでの小槌。うらやましく思ったとなりのよくばりじいさんも、ねずみの御殿に出かけていきます。

「のっぺらぼう」 渋谷勲／脚本 小沢良吉／画 童心社（日本民話かみしばい選）

怖いもの知らずのごんじゅうろうが、おばけぶちで釣りを楽しんでいると、「おいてけえ～おいてけえ～」という怖ろしい声が。慌てて逃げ出すと、怪しい女が向こうからやってくる。女が顔をなでてみせると・・・。

「ばけものでら」 水谷章三／脚本 宮本忠夫／画 童心社（日本民話かみしばい選）

化け物が出るという荒れ寺に、旅の坊さまが泊まった。真夜中に出てきた化け物たちは、正体を当てなければ、坊さまを食い殺すという。さて、化け物の正体とは。

「はなさかじい」 浜田広介／文 黒崎義介／画 教育画劇（紙芝居むかしばなし 第1集）

子どものいないおじいさんとおばあさんは、もらった犬をかわいがっていました。おじいさんが畑仕事をしていると、ここを掘るようと犬が鳴きます。掘ってみると、黄金のつまったかめが出てきました。うらやましく思ったとなりのおじいさんは、犬を借りて掘らせてみますが・・・。

「ふるやのもり」 水谷章三／脚本 金沢佑光／画 童心社（童心社のベスト紙芝居）

狼は、じいさまとおばあさまが飼っている子馬をとろうと家に忍びこんだ。狼よりこわい「ふるやのもり」が来たという声に、出くわした馬泥棒を背に乗せて走り出してしまふ。「ふるやのもり」が乗っていると思った狼は・・・。

「ももたろう」 香山美子／文 太賀正／画 教育画劇（紙芝居むかしばなし 第1集）

おじいさんは山へ薪とりに、おばあさんは川へ洗濯に。おばあさんが、川上から流れてきた桃を家に持って帰ると、桃から男の子が生まれ元気に育ちました。桃太郎と名付けられた男の子は、犬、キジ、サルをお供に従え、鬼を退治に出かけます。

「ゆきおんな」 桜井信夫／脚本 箕田源二郎／画 童心社（日本民話かみしばい選）

吹雪の夜、山小屋へ逃れた狩人の親子のもとに雪女がやってきた。白い息を吹きかけられたお父は死に、息子のみのきちは女に気に入られて助かることができた。次の冬、みのきちの家に宿を乞う女が訪れ、そのまま嫁となり子をなして暮らしていたが・・・。

◆落語でゆかいに◆

「さぎとり」 桂文我／脚本 国松エリカ／絵 童心社（紙芝居おおわらい落語劇場）

でんすけさんは、眠っているさぎを捕まえて腰にくくりつけました。目覚めたさぎは、一斉に羽ばたき、でんすけさんはさぎもろとも空に飛び上がってしまいます。でんすけさんは、目の前の鉄棒にとりつきますが・・・。

「さらやしきのおきく」 桂文我／脚本 久住卓也／絵 童心社（紙芝居おおわらい落語劇場）

10枚の皿のうち1枚無くしたと主人に濡れ衣をさせられ、井戸に投げ込まれたおきくさん。幽霊となって、毎晩皿の数を数えるようになりました。そのうわさを聞きつけた男たちは、怖いもの見たさで見に出かけます。

「七どぎつね」 桂文我／脚本 渡辺有一／絵 童心社（紙芝居おおわらい落語劇場）

お伊勢参りに出かけたきろくさんとせいはちさん、退屈紛れに投げた石が、草むらで寝ていたきつねにコツーン。人を七へん化かすことから七どぎつねと呼ばれるそのきつねは、仇を討とうと2人を化かしはじめます。

「善光寺お血脈のご印」 岡野和／脚本・絵 岡野和の紙芝居刊行会

信濃の善光寺で、お血脈のご印というものを出しました。ご印をひたいに押してもらくと、誰でも極楽往生できるのです。おかげで、地獄はすっかり寂れてしまいました。閻魔大王は、石川五右衛門にご印を盗みにいかせますが・・・。

「そろそろ」 三遊亭圓窓／脚本 渡辺享子／画 汐文社（圓窓の落語紙芝居）

さびれた茶店のおじいさんが、お稲荷様ののぼりを拾いました。社に運んでお参りすると、不思議なご利益が。一足あるきりのわらじを売ると、その度に新しいわらじがそろそろと出てくるのです。向かいの床屋が茶店の繁盛をうらやましく思い、お参りに出かける

「とまがしま」 桂文我／脚本 田島征三／絵 童心社（紙芝居おおわらい落語劇場）

鼻血が止まらないたけやんに、まっちゃんがおまじないを教えました。言われた通り、首筋の毛を3本抜くと鼻血がピタリと止まります。一方、とまがしまへ怪物退治に出かけた殿様一行は、大蛇と戦い鼻を槍で突き刺しました。鼻血を出しながら逃げようとする大蛇ですが・・・。

「めがねやとどろぼう」 桂文我／脚本 東菜奈／絵 童心社（紙芝居おおわらい落語劇場）

間抜けな泥棒が、眼鏡屋へ盗みに入ろうと戸の節穴から中をのぞきました。泥棒の話聞きつけた丁稚は、拡大鏡や将門眼鏡、望遠鏡を使い、泥棒を驚かせて追い払います。

◆日本の古典と名作◆

「安珍清姫物語」 サワジロウ／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房（高齢者向け紙芝居）

熊野詣にやってきた若い僧の安珍は、宿を借りた家の娘清姫に懸想され、偽りの約束をして娘のもとを去ります。裏切られたことを知った清姫は後を追いかけて、ついには蛇体となって安珍を焼き殺しました。悲恋と妄執の物語。

「風の又三郎」 宮澤賢治／原作 岡野和／絵・脚本 岡野和の紙芝居刊行会

谷川の村の小さな小学校に、ようすの変わった転校生がやってきました。まるで、風の子どもの又三郎のようです。村の子らとふしぎな転校生の交流を描きます。

「くもの糸」 芥川龍之介／原作 諸橋精光／脚本・画 鈴木出版（名作児童文学紙芝居）

お釈迦様が極楽の蓮池のふちを歩いていると、池の水を通して地獄の様子が見えました。血の池で苦しむカンダタに目をとめたお釈迦様は、この男の唯一の善行を思い出して一筋のくもの糸を垂らしてやります。くもの糸に登りはじめるカンダタでしたが。

「ごんぎつね」 新美南吉／原作 清水たみ子／脚本 長野ヒデ子／画 童心社

（ほのぼの新美南吉ランド）

兵十へのいたづらを悔いたごんぎつねは、栗やまつたけを家に運んでやります。日々の贈り物を神様のお恵みだと思ふ兵十でしたが、ある日家のそばでごんぎつねをみかけると。哀切な物語。

「曾根崎心中」 近松門左衛門／原作 サワジロウ／脚本・絵 雲母書房（高齢者向け紙芝居）

大金をだましとられた平野屋の手代徳兵衛は、言い交した遊女おはつと添う望みを失い、ふたりで心中することを決意します。かなわぬ恋に殉じた哀切な事件は、近松門左衛門の手で浄瑠璃となり、広く世に知られるようになりました。

「泣いた赤おに」 浜田広介／原作 西本鶏介／脚本 石倉欣二／絵 鈴木出版

（名作児童文学紙芝居）

ある山に、心のやさしい赤鬼が一人で住んでいました。人間たちと仲良くなりたいと思いますが、こわがって近づく者はありません。友だちの青鬼のおかげで人々と親しくなりますが、悪者役を引き受けた青鬼は、置手紙を残し去っていくのでした。

「花の木村と盗人たち」 新美南吉／原作 岡野和／絵・脚本 岡野和の紙芝居刊行会

花の木村に、5人の盗人がやってきました。かしらだけが本物の泥棒で、他の4人は食いつめて弟子になったばかり。かしらは、4人を下見に行かせますが……。しみじみと心に響くおはなしです。

◆寂聴おはなし紙芝居◆

「おばあさんの馬」 瀬戸内寂聴／文 小林豊／絵 講談社

夫と2人の息子を相次いで亡くしたおばあさんは、馬商人から宿代の代わりにもらった子馬を大事に育てました。リタと名付けられた子馬は見事な馬に育ち、王様のところへ連れ去られます。城を逃げ出しておばあさんの元へ戻ったリタに、王様は……。

「幸せさがし」 瀬戸内寂聴／文 はたこうしろう／絵 講談社

チンフーは、亡くなった母の言葉に従い、遠い西の国にいるという仏様に幸せになる方法を尋ねに旅立ちます。途中出会った人々や蛇に、仏様に聞いてほしいことを託されました。ようやく、仏様の元に辿りついたチンフーでしたが……。

「月のうさぎ」 瀬戸内寂聴／文 岡村好文／絵 講談社

昔、インドの国にうさぎときつねとさるが仲良く暮らしていました。ある日、三匹は行き倒れのおじいさんを見つけます。きつねとさるは、森で見つけた食べ物を運んできますが、うさぎは食べ物を見つけることができません。とうとう、うさぎはある決心をしました。

「針つくりの花むこさん」 瀬戸内寂聴／文 たなか鮎子／絵 講談社

インドのある町に住むチャンダは、針つくりの名人でした。大金持ちの1人息子タッカーリーは、チャンダの美しい娘サラに一目ぼれします。タッカーリーの父親の横柄な態度に、チャンダは針つくりの名人でなければ、娘を嫁にやらないと断りました。その話を聞いたタッカーリーは……。

◆他にもいろいろ—高齢者向け紙芝居◆

「うなぎにきいて【おはなし】」 桂文我／脚本 長谷川義史／絵 童心社（ともだちだいすき）

きろくとせいちはち、うなぎやを見つけて入りますが、主人に料理人が休んでいるのでうなぎが出せないと断られます。どうしてもうなぎが食べたい二人は、主人自ら料理しろと迫ります。

「お茶にしましょ【ことば遊び】」 菅野博子／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房

（はじめてみよう老人ケアに紙芝居）

お茶にしましょ。その前に、しりとりをしてみましょか。最初は、「お茶」の「ちゃ」から。「ちゃ」のつくもの、たくさんありますね。今日はこれ、「ちゃぶだい」と続けます。「だい」がつくものは……。しりとりを楽しんだあと、みかんと大福、おこうこで、お茶となります。

「おっばい山 [ユーモア&色気] 中村ルミ子／脚本・絵 遠山昭雄／監修

雲母書房（高齢者向け紙芝居）

三つになる笠太郎は、おっばいが大好き。母ちゃんは、トンガラシを使って笠太郎を乳離れさせたが、りっぱな若者になってもおっばい好きは相変わらず。母ちゃんは嫁を持たせようと隣村の娘を連れてきた。棒みたいなのをきらって笠太郎が山へ入っていくと、何とも色っぽい女が現れた。その女が言うには？

「おどりほダンスホール [趣味・生きがい] 片岡直子／脚本・絵 ときわひろみ／監修

雲母書房（高齢者向け紙芝居）

八十近いげんさんは、ダンスサークル仲間のさゆりさんと踊るのを楽しみにしています。ところが、さゆりさんが他の男性と踊っているのを目にし、ダンスから遠ざかってしまいました。ある日、飼い猫のトラがおめかしして出かけるのをみかけたげんさんが、その後をついていってみると・・・。

「かわださん [つみあげ話] 谷川俊太郎／脚本 やべみつのり／絵 遠山昭雄／監修

雲母書房（はじめてみよう老人ケアに紙芝居）

やまぐちさんを好きなかわださんの孫のナオミがおばあちゃんに送ってもらったお人形を作った京都のせとさん・・・、というように、言葉が積み重なっていき、最後には長いお話となる紙芝居です。

「きつねの盆おどり」 ときわひろみ／脚本・絵 雲母書房

（はじめてみよう老人ケアに紙芝居）

山道でやせた狐の親子に食べ物を与えた母と息子は、いつの間にか盆踊りの会場に迷い込んでいました。祭囃子に誘われて、年老いた母は杖もつかずに踊りだします。東京音頭に炭坑節、唄ったり身体を動かしていっしょに楽しみましょう。

「しょいくらべ [夫婦愛] みんなの家、奥田真美／脚本・絵 遠山昭雄／監修

雲母書房（はじめてみよう老人ケアに紙芝居）

常雄さんと可奈子さんは、とても仲の良い老夫婦です。自分の仕事が早く終わった常雄さんは、可奈子さんのぼた木しょいの仕事を手伝いにやってきました。互いを思いやって、相手より余計に背負おうとする二人でしたが・・・。

「昭和の窓 [回想] やべみつのり／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房

（はじめてみよう老人ケアに紙芝居）

高齢者の方にとって、「昭和」は思い出がいっぱいあると思います。この紙芝居で、昭和にあったいろいろなものを思い出し、楽しいひと時をお過ごしください。

「父のかお母のかお [戦争の時代] ときわひろみ／脚本 渡辺享子／絵 遠山昭雄／監修
雲母書房（高齢者向け紙芝居）

和子と昭一の姉弟は、戦争で両親を失い山奥にある亡き祖母の家で暮らしています。ある日、昭一が山道で迷った復員兵を連れて帰りました。復員兵は、二人から亡くなった両親の面立ちを聞き、絵を描いて残していきました。

「峠の古い桜 [戦争の時代] 北川鎮／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房
（高齢者向け紙芝居）

山奥の村での話です。村境の峠にある大きな桜の老木は、何百年も村人の暮らしを見守っていました。若い衆から手厚い世話を受けていた桜でしたが、戦争の時代となり若者たちは出征していきます。守り手のいなくなった桜は……。人の世の移り変わりを切なく伝えます。

「どっか〜ん [花火] 宮崎二美枝／脚本 おかのけいこ／絵 遠山昭雄／監修
雲母書房（はじめてみよう老人ケアに紙芝居）

暑い夏の夕暮れ、もうすぐ花火があがります。最初にあがった花火は、菊の花のかたち。次の花火はなんとスイカのかたちでした。次々にゆかいな花火があがります。

「とぼしっこ [ナンセンス] ときわひろみ／脚本 やべみつのり／絵 遠山昭雄／監修
雲母書房（はじめてみよう老人ケアに紙芝居）

昔、あるところに3人の神様がいました。今日は、おしっこの飛ばしっこをして遊びます。青神のおしっこは海へ届いて大漁となり、赤神のは山へ届いて噴火をもたらしました。緑神のおしっこは、畑へ落ちて豊かな作物を实らせませす。おおらかな神様のおはなし。

★ **「どんと来い！三途の川 [ユーモア]** 折原由美子／脚本・絵 ときわひろみ／監修
雲母書房（高齢者向け紙芝居）

昔、仲の良いお爺さんとお婆さんがいました。ふたりはどちらが先にあの世に行っても、残された方は後添えをもらわないと誓い合うのですが……。 「三途の川」と聞くと、ドキッとするかもしれません。しかし、この紙芝居はユーモアたっぷりのおはなしです。

「夏のおもてなし [夏の食事] 菅野博子／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房
（はじめてみよう老人ケアに紙芝居）

夏、おじいさんとおばあさんの家では、客へのもてなしに、おじいさんが釣ってきた鮎、もぎたての枝豆、冷たい麦茶と冷えたところてん、自家製のぬか漬け、井戸で冷やした西瓜にトマト、ラムネにビールをお出しします。遊びに来ている孫たちも楽しそう。聞き手と会話しながら楽しめます。

「待ちぼうけ【歌遊び】 北川鎮／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房

(はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

木の根にぶつかり動かなくなったウサギを手に入れたお百姓さんは、畑仕事を放り出し次のウサギがやって来るのを待ち続けます。畑が荒れ果て冬が近づいても……。 「待ちぼうけ～、待ちぼうけ～、ある日せっせと野良かせぎ～♪」で始まる懐かしい童謡のもとになった民話を、歌と手拍子にのせて楽しめます。

「みいちゃんのかぞえうたあそびうた【遊び歌】 ピーマンみもと／脚本・絵

ときわひろみ／監修 雲母書房 (はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

みいちゃんは、おばあちゃんちに遊びにきました。おばあちゃんとあやとりやお手玉で遊びます。いとこのみよちゃんが帰ってきました。今度は、まりつきや手遊びをしました。

懐かしい遊び歌や数え歌が出てきて、一緒に楽しむことができる紙芝居です。

「みいちゃんの春【童謡】 ピーマンみもと／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房

(はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

庭の梅に、うぐいすがやってきました。みいちゃんのお母さんは、押入れからおひなさまを出しました。ようやく暖かくなり、みいちゃんは赤い鼻緒のじょじょ（草履）をはいてお散歩にでかけます。つくしを見つけて摘みました。おはなしの中で、懐かしい童謡が5曲出てきます。みんなで歌ったり、幼い頃を思い出しながら楽しむことができます。

「みいちゃんの夏【童謡】 ピーマンみもと／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房

(はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

梅雨が明け、空には虹がかかっています。みいちゃんは、金魚を買ってもらいました。スイカを食べてお昼寝です。涼しい風に、風鈴がチリン。みいちゃん、この前行った海の夢を見ているのかな。童謡とクイズで楽しく過ごせる紙芝居です。

「みいちゃんの秋【童謡】 ピーマンみもと／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房

(はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

秋、みいちゃんは買ってもらった赤い帽子をかぶり、栗拾いに行きます。紅葉を眺め、栗を拾いました。お昼は、栗ご飯のおにぎりです。秋はおいしいものがいっぱいありますね。たんぼのかかし、赤とんぼ、きれいな夕焼けを見て帰ります。5曲の童謡が出てくるお話。

「みいちゃんの冬【童謡】 ピーマンみもと／脚本・絵 遠山昭雄／監修 雲母書房
(はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

寒い冬、みいちゃんは焚き火にあたっています。火の中にはやきいもがあります。お父さんとお母さんは、年の暮れの大掃除や買出し、もちつき、料理作りと大忙し。お外に出て、富士山を眺めていると初雪が降ってきました。懐かしい童謡が、話の合間に入った紙芝居です。

「みんなでおめでとう【音遊び】 八尾雅之／原案 ピーマンみもと／脚本・絵
遠山昭雄／監修 雲母書房 (はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

今日は、おばあちゃんの誕生日。かおりちゃんは、プレゼントを持っておばあちゃんの家へ向かいます。途中で、カエルくんやアヒルちゃん、タコさんもついてきました。

おはなしの中に出てくる「音」を、参加者に担当してもらすることができる紙芝居です。

「もも子さんとオレオレ詐欺【高齢者サポート】 中村ルミ子／脚本・絵 雲母書房
(はじめてみよう老人ケアに紙芝居)

ある日、もも子さんの自宅に、アメリカに住んでいるトモキさんから、久しぶりに電話がありました。しかし、実際はもも子さんからお金をだまし取ろうとする、振り込め詐欺の電話だったのです。もも子さんは、騙されずに済むことができるでしょうか。

高齢者の方が、振り込め詐欺のことが、理解しやすい紙芝居です。

◇ご参考までに◇

「お年よりと絵本でちょっといい時間」 山花郁子／著 一声社 2003年刊
請求記号：369.2ヤ

「介護とブックトーク」 梓加依、他／著 素人社 2011年刊
請求記号：369.2カ

「紙芝居の演じ方Q&A」 まついのりこ／作・絵 童心社 2006年刊
請求記号：779.8マ *児童書フロアの「児童書案内」コーナーにおいてあります

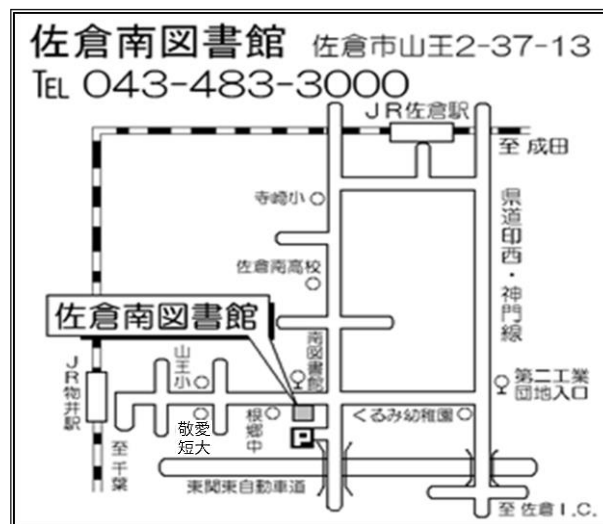
「はじめよう老人ケアに紙芝居」 遠山昭雄／監修 雲母書房 2006年刊
請求記号：369.2ハ

シニア向け紙芝居ガイド

—佐倉市立佐倉南図書館所蔵—

2020年6月 6訂版発行

*こちらのブックガイドは、佐倉市立図書館の
ホームページでもご覧になれます



佐倉市立佐倉南図書館 (<http://www.library.sakura.chiba.jp/>)

開館時間: 午前9時～午後8時

休館日 : 月曜日(祝日の場合は翌日以降の平日)、第1火曜日(祝日の場合は翌日以降の平日)、
年末年始、特別整理期間